



緩和ケアやホスピスについて 専門医らが解説した公開講座

市民や医療従事者

がん患者ケア学ぶ

アルヴェで公開講座

緩和ケア病棟（ホスピス）の機能やがんの症状緩和について学ぶ公開講座が4日、秋田市の秋田拠点センター・アルヴェで開かれた。市民や医療従事者ら約150人が、がん患者のケアのポイントやホスピスの特長に理解を深めた。外旭川病院（三浦進一院長）の主催。

同病院の緩和医療専門医・

松尾直樹さんが講師を務め、がんに伴う痛みの緩和方法を解説した。痛みの9割は投薬で抑止できるとされるものの、国内で緩和処置が適切に施されているケースは6割未満にとどまると指摘。「医療者の認識不足による部分が大

きい。痛みの緩和は軽視されがちだ」と述べた。

痛みの緩和にはモルヒネの投与が効果的とした上で、「依存症になる、寿命を縮めるといふのは偏見。副作用は予防できる」と強調。「薬に正し

い知識を持ってほしい。早期に患者さんの苦痛が抑えられれば、趣味の充実や食欲増進にもつながる」と話した。

このほか、緩和ケア認定看護師が、外旭川病院のホスピスや、提供している緩和ケアなどを紹介。同病院では241床のうち34床がホスピスで、4日現在は満床という。

（嶋崎宏樹）